

稲敷市 “持続可能な地域づくり” ニュース <vol.8>

12月14日（水）、第3回「稲敷市持続可能な地域づくりプラン策定委員会」が開催されました。先日最終回を迎えた「いなしきを未来につなぐ地域づくりワークショップ」に続き、策定委員会も今回が最終回となります。これまでのワークショップで議論された内容を部会ごとに取りまとめ、部会代表者より今後の地域の在り方、方向性等が提案されました。

これらを踏まえて、地域づくりプランをどのように実現していくかが重要であることから、その具現化案を整理するとともに、市民、企業等、行政がそれぞれの役割で取り組んでいくことを明確にすることにより、地域づくりプランを「策定して終わり」にしない工夫を加えています。



地域づくりプランは策定委員会の承認が得られましたので、正式に決定となりました。来年度は稲敷市総合計画の策定を予定していることから、これにも地域づくりプランを反映していきたいと考えています。

また、地域づくりプランについての議論のほか、今回の策定委員会では、ワークショップメンバーが自主的に活動した際の報告も行われました。旧根本小学校跡地の視察、世田谷区羽根木プレーパークの視察、東部会メンバーによる定期的なミーティングなど、ワークショップ以外でも積極的な活動が行われました。

さらに、東部会の山崎さんから、ワークショップでの出会いをきっかけとして、まちづくり会社の設立や定期的な会合の場としての「イナシキシミンカイギ」の設置についても発表されました。策定委員会委員長である筑波大学の大澤教授も、このような取組が生まれたことに驚き、期待を寄せていました。

新たな地域コミュニティとその担い手の創出は、持続可能な地域づくりを推進するためには必要不可欠な要素です。行政は、これらとの連携を図るとともに、その活動を後押しするような支援を行っていきたいと考えています。新たなまちづくりの芽に今後も注目しながら、稲敷市の「まちづくりの抜本的な見直し」はこれからがスタートです。



持続可能な地域づくりの推進にあたって

① 地域づくりシンポジウムの開催を中心に据えた推進

持続可能な地域づくりプランは、“稲敷=ツナガル=まちづくり”をテーマに、『協働のまちづくり』を進めていこうとするもので、市民、企業等、行政が様々な分野で連携・協力することを重視します。

現在の稲敷市では、協働による取組が進んでいる分野もありますが、まちづくり全体が協働を基本としたものとはなっておらず、今後は、市民、企業等、行政がお互いの状況を理解しながら尊重し合い、それぞれの役割分担の中で、それぞれが得意な分野においては積極的に取り組み、また、得意でない分野においては補い合うようなパートナーシップの醸成が必要となります。

したがって、持続可能な地域づくりの推進にあたっては、市全体で市民、企業等、行政の情報共有化が図られ、それをもとに話し合いができる一つ的手段として「地域づくりシンポジウムの開催」を中心に据えて、様々な具体的な取組を進めていくこととします。

② 市民参画の場の設置とまちづくり団体との連携による推進

第5回ワークショップ終了後、参加者から今後も地域づくりなどの情報共有の場、議論の場、交流の場を続けたいという声掛けがあり、定期的な会合として“(仮称)イナシキシミンカイギ”を設置したいという提案がありました。

さらに、一部の参加者においては、今回のワークショップ等を契機に、まちづくりのための団体設立を検討しているという情報提供もありました。

(仮称)イナシキシミンカイギは、これまで5回にわたって行われたワークショップのつながりを今後も続け、各地域の地域づくりの情報交換や新たな取組の作戦会議など、市民主体の交流の場を設けるとともに、地域の写真投稿など、一人でも参加できるまちづくりサイトの開設を行おうとするものです。

また、まちづくりのために設立予定の団体においては、「自分たちのまちづくりを行政だけに頼ってはいけない、行政が苦手な領域のまちづくり活動を自分たちが担っていく」という信念のもとで設立するというものです。

したがって、持続可能な地域づくりの推進にあたっては、これらのコミュニティや団体の存在は、市民参画を促進するための大きな原動力となると考えられますので、「市民参画の場の設置とまちづくり団体との連携」を中心に据えて、これらの支援に努めていくこととします。

③ その他の取組による推進

“稲敷=ツナガル=まちづくり”を推進するためには、上記以外でも、今回の地域づくりのキャッチフレーズを、行政だけでなく、広く市民や企業等にも知ってもらうために今回のキャッチフレーズをロゴデザイン化、公共用地の利活用において民間企業等の提案を広く公募するサウンディング調査の実施など、行政だけでなく、広く市民や企業等と、稲敷市の地域づくりについて、情報を共有化すること、話し合うこと・提案等を貰うこと、連携・協力して取り組むこと、得意なことは頑張り、不得意なことは任せる役割分担など、これらの化学変化の中で、持続可能な地域づくりを進めていくことが、今回のキャッチフレーズとして掲げる“稲敷=ツナガル=まちづくり”の具現化であると考えられます。

【その他の取組 (案)】

- キャッチフレーズの公募によるロゴデザイン化
- 市内企業等とのまちづくり協定による連携・協力
- 公有地利活用の民間提案募集 (サウンディング調査など)
- その他

